

市民と市長の意見交換会

No	日程	場所	質問内容	関係局	回答者	回答
1	H27.7.18	川島コミュニティセンター	<p>三木町に接した東植田町の山奥で環境がいいところに住んでいるが、野生の猿が出没するなど、鳥獣被害に頭を悩ませている。かつて19軒あった集落が現在は5軒しかなくなった。住環境整備において、鳥獣被害対策など、市と県で協力し、手っ取り早いところからでも実施してほしい。</p> <p>また、土囊を川島地区まで取りに行くことが大変な状況であったことから、土囊集積所を東植田地区に作ってもらったが、防犯灯がないため、実際の災害時に暗くて行けないことから、防犯灯の設置をお願いしたい。</p> <p>最近、自死が増えた気がする。命を大切にすることは、人権尊重なのだといっても理解するのは、なかなか難しい。学校教育だけに任せるのではなく、あらゆる場で進めていくことが大事であると思う。昔のように、住みよいまち、生きていて楽しいまちになるよう、もう一工夫すれば田舎に残り、田舎に帰ってくる人も多くなるのではないかと思う。仕事があるとかないとかではなく、何か温かみのあるものが求められているのではないか。</p>	市民政策局 健康福祉局 創造都市推進局 教育局	市長	<p>東植田町に出没する野生の猿対策については、本市と県が連携し、平成26年度から被害防止対策についての勉強会や環境点検を実施するほか、集落ぐるみでの追払い活動や放任果樹の除去等、サルが近づきにくい環境づくりを推進してきた。</p> <p>平成27年度も引き続き、環境づくりを推進するとともに、特に出没頻度が高いエリアを特定し、地元コミュニティ協議会と地元香川県猟友会との連携を図り、箱わなによる効果的に捕獲を実施したい。</p>
				市民政策局	市民政策局長	<p>防犯灯の設置の問題については、行政の姿勢の問題でもある。市域が広く、全ての問題に対応できていないところもあるが、1つ1つに丁寧に対処することが大事であると思う。</p> <p>また自殺の問題は人権にも関わる話で、市では約10年前に「高松市人権教育・啓発に関する基本指針」を策定しているが、子どもや高齢者の虐待など新しい人権の問題も見えてきているので、学識経験者等に集まっていたり、近年の状況に対応するため、28年度に向けて指針の見直し作業を進めている。</p>
				健康福祉局	健康福祉局長	<p>自殺者は全国的に減少している傾向にあるが、自殺を防止することは、大事な施策であると考えます。本市の自殺の現状を踏まえ、地域及び職域でこころの健康について、規則正しい生活やストレス対処法等の普及啓発と、地域での声かけやゲートキーパーの役割を担ってもらえるよう健康教育を行っている。</p> <p>若者へのメンタルヘルス支援としては、こころの健康に関するアンケート調査結果に基づき、文化祭等の機会を利用して、こころの健康づくりの周知啓発を行うこととしている。</p> <p>保健センターでは、こころの健康相談窓口を設置し、常時相談対応を行っているほか、自殺未遂者や家族への支援として、臨床心理士等専門家による面接相談も行っている。</p> <p>また、職員が受付窓口等で、市民のこころのSOSに気づき、適切に対応できるように、近く「窓口ゲートキーパー手帳」を作成し、活用する予定である。</p>
				創造都市推進局	創造都市推進局長	<p>本市では、鳥獣被害を軽減するため、有害鳥獣の目撃情報が多い地区を香川県野生鳥獣適正管理事業に基づき「モデル地区」として選定し、地区住民を対象とした野生鳥獣を近づかせない環境づくり(隠れ場をなくす・追い払い等)の講習会を開催するとともに、香川県地区猟友会と連携して、捕獲を強化しています。</p>
				教育局	教育局長	<p>子どもたちが命の大切さや、生きることの尊さ等を学ぶ教育の充実を図るためには学校、家庭、地域の連携が重要である。そのため、各学校では、道徳や生活科、理科等の授業において、家庭や地域の協力を得つつ、自分が生きていることの意義、先祖から受け継ぎ、子孫へ受け渡していく連続性など、命の意味を考え、自他の生命を尊重する心や態度を育てるとともに、様々な体験を通して、命の尊さを実感する学習を行っている。さらに、いじめ問題への対処として、法に基づき、いじめ防止基本方針を今年4月に策定し、教育委員会、学校、保護者・地域、関係機関等の取組を明らかにし、対応を進めている。教育委員会としては、今後とも、かけがえのない生命を尊重する心を育む学習の充実を図るよう、各学校を指導していく。</p>

市民と市長の意見交換会

No	日程	場所	質問内容	関係局	回答者	回答
2	H27.7.18	川島コミュニティセンター	<p>先日、伊勢志摩サミット関係関係会議について、高松市で、情報通信大臣会合が開かれることになったことは、浜田知事を始め、大西市長が誘致推進協議会会長・副会長として尽力されてきた成果であり、改めて、香川県・高松市が注目されているのだと感じた。新聞等で、遠隔医療が評価されたと報道されていたが、ここ10年、医療のIT化について、香川県が推進してきたということ以外にも、香川県の一企業が、岩手県の周産期母子医療情報システムや周産期電子カルテの普及を支援したことにより、東北の大震災の際に、投薬データが守られたり、医師派遣ができたことというところが、今回のサミットにつながっているのではないかと思う。</p> <p>これから若い人が安心して子供を産み育てられるようにするためには、母子手帳のデータ化や産婦人科向けのシステムの構築、妊産婦と保健師を結んだ健康管理など、様々な手法があると思う。特に、マイナンバー制度の中に、どれだけのことを盛り込んでいけるか、高松市には期待している。そこで、今一度、K-MIXができた経緯や現状の課題、大西市長の考える戦略等について聞いてみたい。</p> <p>さらに、さぬき市及び東かがわ市では、人口が著しく減少しているが、これらの市に対し、どのような施策が有効と考えているかを聞きたい。</p>	市民政策局	市長	<p>まず、今回のサミットの情報通信大臣会合について、サミットは、現在、G7の主要7ヶ国が持ち回りで開催しているので、日本では、8年ぶりに開かれることになる。</p> <p>関係関係会議はサミット本体に併せて開かれるが、その国によってほとんど開かれぬ場合もあるし、2つ3つという場合、或いは、多い時には7つ8つ開かれる場合もある。前回の洞爺湖サミットでは、5つぐらいしか関係関係会議は開かれてない。</p> <p>今回、サミット本体に手を挙げた都市が8つあり、その中で伊勢志摩が選ばれた。あとの残りは、主要都市であったので、これらの都市で、ほとんどの関係関係会議が開かれるだろうと思っていた。香川県と本市は、サミット本体には手を挙げておらず、関係関係会議だけ開きたいということに手を挙げていたので、なかなか難しいだろうとも思っていた。</p> <p>そこに、この情報通信大臣会合が開かれることが決まったので、私も非常にうれしい驚きというか本当にありがたい話と受け止めている。</p> <p>ただし、情報通信大臣会合は、これまでサミットに併せて開かれた例がなく、今回、初めて開かれるということから、どういう形で、どういう風にして開催するかについては、担当省である総務省の情報通信局と綿密に打合せをしていきたい。せっかくの機会なので、是非とも、本市で開かれた情報通信大臣会合は素晴らしいと思った、良い国際会議だったと言われるよう万全を期してやっていきたい。</p> <p>今回、本市で、情報通信大臣会合が開かれることになった理由の1つは、それだけの規模の国際会議を開くことができるインフラが整っているところ、もう1つは、小規模ながら国際会議の実績があること、それらに加え、情報通信分野において、遠隔医療の試みとしてのK-MIXなど、本市の先進性に着目していただいた結果だと考えている。</p> <p>したがって、今回の大臣会合においては、K-MIXの現状と、今後の展開の方針の中での流れについても、広く周知をしていくと同時にせっかく情報通信大臣会合を開くことから、今の本市の情報通信の状況と、大臣会合までに情報通信関係をこういう風にしていきたいということも打ち出して、それを展示したいと思う。また、大臣会合を契機として、それ以降、高松のまちづくりに情報通信分野においては、より先端的なものを取り入れながら活用していくという方向性を早めに取りまとめて出していきたいと思う。</p> <p>その中で、今言われたマイナンバーなどへの活用について、他市と比べて、早く活用するという方向性も出していきたい。マイナンバー制度については、まだ十分国民に浸透していないが、10月には全ての国民に12桁の番号が割り振られる。来年の1月にはカードが発行され、まず、税、社会保障分野において、マイナンバーが実際に活用されることとなるので、情報通信大臣会合と合わせて、市民に周知しなければならぬと思っている。</p> <p>情報通信大臣会合を成功させることも大事だが、同時に本市の情報通信施策をより高度化し、レベルアップして発展させていきたい。それから、もう一つの質問である人口問題等について、本市の連携市である、さぬき市、東かがわ市においては、自然減・社会減が進んでいるが、本市では、自然減を社会増で補う形で、人口が微増で推移している。しかし、県外とのやり取りはマイナスで、その分を県内市町村とのやり取りで補ってプラスとなっているのが実態である。</p> <p>逆に言えば、さぬき市、東かがわ市の人口減が本市の人口増になっているだけで、地域全体としては、そんなに胸を張れることではない。これからは人口減少に対処する総合戦略を本市の施策として考えるのは当然であるが、より広域的な施策として、圏域全体の人口減少の抑制が図られるような施策もきちんと考えなければならぬ。生み育てられやすい環境づくりも、より広域的に展開しなければならぬと考えている。3市5町からなる瀬戸高松広域定住自立圏において各種施策を実施しているが、来年度からは連携中核都市圏として本市のリーダーシップが強くなる広域圏に衣替えする。それに合わせ、新たなビジョンや計画をつくることとしており、人口減少対策にも重きを置きながら広域圏のきちんとした計画をつくることとしており、全体として活力が保たれるような方向性を他の市長・町長と話をしながら進めていきたい。</p>
3	H27.7.18	川島コミュニティセンター	<p>日本の中で今元気があるのは北陸だといわれている。新幹線が通り、観光面でも恵まれていて、首都圏からも近いということで、北陸が元気であるが、北陸のどんな点が高松市より先行しているか教えてほしい。</p> <p>高松市や瀬戸内の良さを積極的にアピールし永住したいと思わせることが大事であると思う。県内で広域的にスクラムを組んでまちづくりにチャレンジしていくとしているが、瀬戸内海という宝があるので、岡山県や関西圏など広域的に施策に取り組む考えについて聞きたい。</p> <p>私自身、九州出身の転勤族であったが、30年ほど前に高松に永住することを決めた。私は九州へ帰りがかったが、住みやすく、新鮮な魚が豊富にあり、そして何より自然災害が少なく、海あり山あり山があり、教育環境も良いという条件が揃っていて、中央通りの並木など街がきれいだと妻と娘が言っていたことを思い出す。当時、四国4県を仕事で回っていたが、私も確かにそうだと思う、永住を決めた。高松市の良さをどうPRするかは大事なことでと思うのでその考えを聞かせてほしい。</p>	市民政策局	市長	<p>北陸は3月に北陸新幹線が開通し、以前、東京からは4時間かかっていたが、2時間半で行けるようになったことから観光客が押し寄せている。北陸全部ではなく、金沢市の独り勝ちといわれているが、歴史と伝統の豊かな都市で、学ぶべき点は多いと思う。お互い前田家と松平家の城下町として発展し、今でも両家に交流があるなど金沢市とは色々色々と縁があって、一昨年文化・観光交流協定を締結している。</p> <p>福井・石川・富山の北陸3県は豊かさや幸せ指標で必ず上位にランキングされる。特に福井では、3世代同居率が高く、共働きで子供を祖父母に預け、それぞれが稼ぐことから生活も豊かであるといわれている。この地方独特のものかもしれないが、分析して香川県や本市で取り入れられるところは取り入れて心豊かな住みやすいまちづくりに結び付けていきたい。</p> <p>金沢市は、例えば伝統的ものづくりに関し先進地であり、職人学校という学校整備もなされており、金沢独自の伝統的ものづくりを子どもたちに引き継ぐシステムができています。富山市は、LRTという路面電車を軸にしたまちづくりに関して全国で唯一の成功例である。3県それぞれの良さを学びたい。</p> <p>2点目の瀬戸内海を中心とした広域観光を考えるべきだという意見には全く同感で、台湾を中心とした海外からの香川県への観光客が増えているので、瀬戸内海を中心とした広域観光ルートについて外国人を中心にアピールしていきたい。</p> <p>また、定住人口が減少しても交流人口が増え、その人たちが消費をしてくれれば、経済活動は回っていくので、交流人口・観光振興をこれまで以上に大事に考えていきたい。</p> <p>さらに、国が全国で7つの観光周遊ルートを発表したが、うち2つが香川県に関係するもので、1つは瀬戸内海に関する観光ルートで、もう1つは、スピリチュアルな四国88か所の遍路道が認定された。国が力を入れてくれるので、地方としても頑張りが、広域観光による交流人口の増加を図りたい。</p> <p>最後の本市のアピールについて、海に直これだけの街が面している中核市は全国的に見ても本市だけであると思っている。自然に囲まれた中で、中心部はコンパクトにまとまっていて都市的機能が十分発揮でき、中央商店街を中心とした中心市街地がある。昔、大平元首相が田園都市国家構想を打ち出していた。都心部で田園部のやすらぎと潤いを、田園部で都心部の利便性を享受でき、町に住みながらも自然豊かにやすらぎをもって生きることができ、郊外に住みながらも少し行けば都心部の利便性を味わえるという理想の田園都市構想が、本市において実現できると思う。良い所を伸ばしながらPRIに努めたい。</p>
4	H27.7.18	川島コミュニティセンター	<p>日本の中で今元気があるのは北陸だといわれている。新幹線が通り、観光面でも恵まれていて、首都圏からも近いということで、北陸が元気であるが、北陸のどんな点が高松市より先行しているか教えてほしい。</p> <p>高松市や瀬戸内の良さを積極的にアピールし永住したいと思わせることが大事であると思う。県内で広域的にスクラムを組んでまちづくりにチャレンジしていくとしているが、瀬戸内海という宝があるので、岡山県や関西圏など広域的に施策に取り組む考えについて聞きたい。</p> <p>私自身、九州出身の転勤族であったが、30年ほど前に高松に永住することを決めた。私は九州へ帰りがかったが、住みやすく、新鮮な魚が豊富にあり、そして何より自然災害が少なく、海あり山あり山があり、教育環境も良いという条件が揃っていて、中央通りの並木など街がきれいだと妻と娘が言っていたことを思い出す。当時、四国4県を仕事で回っていたが、私も確かにそうだと思う、永住を決めた。高松市の良さをどうPRするかは大事なことでと思うのでその考えを聞かせてほしい。</p>	市民政策局	市民政策局長	<p>本市の良さを外から見たらどうかということをしつかり聞くべきだという市長の指示もあり、Uターンで本市に戻ってきた方や東京圏から移住してきた方にも地方版総合戦略の懇談会委員に加わっていただいている。その人たちからの意見を聞いていると、外から見ると本市の良さが分かるが、住んでいるとあまり分かっていないことに気づかされる。住んでいる私たちが本市の良さを認識し、計画づくりに生かしていきたい。</p>
5	H27.7.18	川島コミュニティセンター	<p>地域コミュニティを軸としたまちづくりの目玉事業について聞きたい。</p> <p>また、総合センターや地区センターに移行する際、山田のコミュニティは今のまま住民票の取次などは継続していくということを知っているが、今後の方針について教えてほしい。</p>	市民政策局	市民政策局長	<p>地域コミュニティが発足してほぼ10年になるが、様々な成果がある一方で、様々な問題も見えてきている。今後の大きな方向性としては、地域コミュニティ協議会と市の役割分担を整理する中で、市としてどのような形で支援をしていくべきか、これまでの総括・点検をして、今後10年をどのようにしていくかという視野で考えていかなければならないと思っている。</p>
				総務局	総務局長	<p>地域行政組織の再編に当たり、総合センター(仮称)に移行する山田支所等においては、現行の行政サービスに加え、身近な住民福祉の向上につながる新たな行政サービスを取り扱うこととし、現在の出張所から移行する地区センターや、十河コミュニティセンター等にある、出張所とほぼ同様の業務を取り扱う証明書取扱コーナーは、現行のサービス水準を維持することを基本として考えている。</p>